人穴小 学校だより

ふれあい

令和２年　10月28日
富士宮市立人穴小学校
第６号

ＴＥＬ５２－００４０

ホームページ　http://www.fujinomiya-shizuoka.ed.jp/e-school/14hitoana/

学校教育目標　『自らをきたえ　共に生きる子（自尊・他尊・共存）』

「言葉を大切に…」

校長　柏木　武文

校庭から見える富士の山頂が雪化粧をし、日に日に秋の深まりを感じています。子供たちは、気温の低い日も元気いっぱいで、休み時間には運動場を走り回っています。

10月は、運動会、授業参観など、学校での子供たちの様子を見ていただく機会があり、多くの保護者の皆様に来校していただきました。子供たちは、少し緊張しながらも、お家の方に見守られて、いつもとは違う表情を見せて頑張っていました。「見つめてあげれば、子供は頑張り屋になる」…これは、『子どもが育つ魔法の言葉』（ドロシー・ロー・ノルト、レイチャル・ハリス著）に書かれている言葉の一つです。「言葉の通りだなあ」「それぞれの家で、大切に見つめられて育っているんだなあ」とあらためて感じ、心が温かくなりました。

授業参観日には、学校評議員会も行いました。評議員の皆様から、「運動会の子供たちの様子にたくましさを感じた。」「（実際の人数より）子供がたくさんいるように感じた。」など、子供たちの頑張り、成長を認めていただくお話がありました。地域の方々にもしっかりと見つめていただいていることに、感謝いたします。

さて、２学期も前半が終わり後半に入ります。めあてについて振り返りをして、次に生かす時期です。そこで、１１月の朝会では次のような話をする予定です。

２学期の始業式では、今年のキーワードの「自尊・他尊・共存」に近づくために、「自分の得意をつくる」、「みんなのよさを見つける」、「自分の気持ちを伝える」の３つに挑戦してほしいという話をしました。

その中の「自分の気持ちを伝える」と関係のある話です。10月はたくさん本を読むことがめあてになっていたので、まず、図書室にあった本を１冊紹介します。『一生大切にしたい70の名言』という本です。この本は、いろいろな世界で活躍した人の「言葉」を紹介している本です。

例えば、松岡修造さんの言葉は「100回叩くと壊れる壁があったとする。でも、みんな何回叩けば壊れるかわからないから、90回まで来ていても途中であきらめてしまう。」というものです。松岡修造さんという人は、世界で活躍したテニスプレーヤーでした。この言葉は、ちょっと難しいですが「あきらめないで、もう少し頑張ってみようよ」という気持ちを伝えている言葉です。私は、この言葉が好きで心が折れそうになったときに思い出すことがあります。「あと何回かはわからないけど、もう少しで今ぶつかっている壁を壊すことができるかもしれない。」と思って、頑張れるからです。

さて、どうしてこんな話をしたか、わかりますか？私は「言葉」には、凄い力があると思っています。誰かに言ってもらった「言葉」によって、うれしい気持ちになったり、反対に悲しい気持ちになったりした経験がみなさんにもあると思います。それは「言葉」の力です。そこで、みなさんには是非「言葉」を大切にしてほしいと思って、この本を紹介しました。みなさんがよく読んでいる物語や説明文とはちょっと違うタイプの本です。「言葉」の力を感じるかもしれません。

みなさんが、今、使える「言葉」は、まだまだ少ないと思います。これから「言葉」をどんどん増やしていくことも必要になりますが、まずは「言葉」を大切に選んで使うことに挑戦してほしいと思います。そして、「言葉」は、相手を元気にしたり、うれしくさせたり、楽しくさせたり…すること。反対に、いやな気分にさせたり、傷つけたりすることもあることを、忘れないようにしましょう。「自分の気持ちを伝える」ときに重要になるのは「言葉」です。「言葉」を大切にして、上手に使えるようなると、自分の気持ちや考えをわかりやすく相手に伝えることもできるようになります。相手を幸せな気持ちにすることもできます。ふだん、何気なく使っている「言葉」を大切にしていきましょう。

１１月に予定していた「学校と地域のつどい」は中止となりましたが、21日(土)に、保護者授業参観として学習発表会を行います。感染症防止対策のため、体育館でスペースを広くとっての実施を計画します。子供たちの頑張る姿を是非ご参観ください。